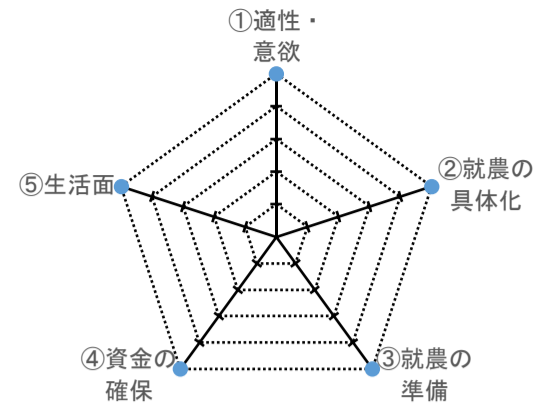


新規就農チェックシート ～ 就農に向けて自分を見直し「カイゼン」する ～

- 農業で生計を立てることを前提として、新規就農に当たっての適性や知識、準備の進み具合をチェックしましょう。
- 必ずしも以下の文章のとおりでなくても良いので、自分のケースに当てはめて解釈して回答してください。（例）設問「（資金借入について）保証人が確保できる」→資金借入が必要ない人にはこの設問は不要ですが、集計上、記入が必要なので、問題なしとして「○」としてください。
- 各項目の採点后、右のレーダーチャートに点数を入れて、就農に当たって準備が不足している項目を把握しましょう。



①就農の適性・意欲

①就農の適性・意欲		点
(1) 適性		
1	健康・体力には自信がある。	
2	生き物（動植物）が好きである。	
3	単純作業もこつこつできる。	
4	他人とのつきあいが嫌いではない。	
5	屋外で体を動かすことが好きである。	
6	忍耐力に自信がある。	
(2) 意欲・動機・知識		
7	趣味や家庭菜園レベルでなく、自らの農業所得で生活し職業としての農業を目指している。	
8	新規就農した経営者に会ったり、体験談を直接聞いたことがある。	
9	これまでに受けた農業体験や研修により、農作業の厳しさは体で分かっている。	
10	自然災害や技術不足のために収穫・収入が皆無になる可能性もあることを理解している。	
11	新たに農業を始めることは、経営者として事業を始めることであることを理解している。	
12	非農家出身者が新たに農業を始めることは、すでに農地や機械を持っている農家よりも容易ではないことは理解している。	
採点①	○の数で採点。12個→5点、11～10個→4点、9～7個→3点、6～4個→2点、3～1個→1点、0個→0点	

②就農の具体化

②就農の具体化		点
(1) めざす農業経営像の明確化		
1	新規就農に関する情報収集に力を入れている。（相談窓口訪問、相談会参加、インターネット・情報誌等から収集）	
2	作目は選択している（どんな作物を作るのか）。	
3	経営タイプの選択をしている（経営作目は単一か、複数以上か）。	
4	栽培方法の選択をしている（露地栽培か施設栽培か、通常栽培か有機栽培か）。	
5	農作業に従事できる労働力と作目・経営タイプ・栽培方法の選択、並びに経営規模等がマッチしていると思う。	
6	農産物の販売に自信がある。（マーケティング関係業務経験、元の職場同僚、知人・友人、商業関係者とのネットワーク等）	
(2) 就農先の選定		
7	就農地は「(1) めざす農業経営」の作目や栽培方法の選択とマッチしている。	
8	選択作目の主産地であり、生産技術の指導体制や生産物の出荷・販売体制が整備されており、新規就農者の受け入れ支援が期待できる。	
9	現地視察に際しては、1箇所は何度か足を運ぶようにしている。	
10	生活条件（町中心地までの距離や道路・交通事情、学校や病院・商店までの距離等）の検討をした。	
11	就農先の選定に当たっては、決定前に家族（できれば全員）を現地に同行して訪れている。	
12	現地視察の際は、地元の農家（住民）から積極的に、地元の状況について話を聞いている。	
13	農地を確保（購入又は借りる）できる情報を得ている。	
14	就農先に、就農に当たって面倒を見てくれる世話役的な人がいる。	
15	住宅を確保する目途が立っている。	
採点②	○の数で採点。15～13個→5点、12～10個→4点、9～7個→3点、6～4個→2点、3～1個→1点、0個→0点	

③就農の準備

(1) 農地の取得と技術の習得

1	農地の取得を考えている場合は、農地法の要件がクリアできる。 ◇すべての農地の耕作や農作業に従事すると認められること ◇取得後経営面積が原則として50a以上（県知事が別段の面積を定めた地域については、その面積以上。市町村の農業委員会で定める下限面積） ◇住居地から農地までの通作距離・通作時間からみて効率的に利用して耕作すると認められること
2	借入の場合、10a 当たり小作料（市町村で公表される賃借料）の金額を把握している。
3	生産技術は習得できている。もしくは、就農後に技術的なサポートが受けられる。
4	自動車運転免許（普通免許以上）を所持している（ペーパードライバーを除く）。

(2) 農業機械・施設の取得や営農計画

5	農業機械・施設の取得（購入や借り入れ）の計画を立てている。
6	就農後の営農計画や販売計画等を立てている。（農協出荷、農協出荷+直販、直販+個人宅配、生産・加工・販売一連の多角的経営、有機農産物の生産・販売）

採点③ ○の数で採点。6個→5点、5個→4点、4個→3点、3個→2点、2～1個→1点、0個→0点

点

④資金の確保

1	営農のために用意できる自己資金額はいくらですか。 [_____ 万円] A ◇ 200万円以上 500万円未満…1点 ◇ 500万円以上 1,000万円未満…2点 ◇ 1,000万円以上 2,000万円未満…3点 ◇ 2,000万円以上……………4点
2	借入が必要な金額はいくらで、活用できる融資制度は何があるかを検討した。保証人が確保できる。 制度名「 _____」、借入金額 [_____ 万円] ◇営農のために必要となる資金額の見込み。（初期の設備投資資金と1年目の資材・材料費。農地購入の場合は土地代も含む） [_____ 万円] B ◇借入が必要な資金額 [_____ 万円] B - A

採点④ 1の設問は配点のとおり（200万円未満の場合は0点）。2の設問は○ならば1点。

点

⑤生活面

(1) 生活資金

1	生活資金の確保を十分検討している。 ◇ 2年間位の最低生活費（家族1人当たり年間：約100万円）は確保している。 【参考：家計支出額÷平均家族人数=1,056千円 農家の家計実態調査(2018年6月)より】 ◇ 農業所得と自己資金で2～3年は確保できる見込み。 農業所得： _____ 万円+自己資金： _____ 万円 ◇ 国や自治体の支援資金や自己資金で対応できる。 ◇ 本人や家族に、ある程度の農業外収入が見込める。
2	借家の場合、農業収入が不十分でも家賃が確保できる。
3	サラリーマンの時に給与から差し引かれていた税金、福利厚生費のうち、市町村民税、国民健康保険料は前年度の所得に対して課税されるが、その支払いを考慮している。

(2) 生活・教育関係

4	住居がアパートなどの集合住宅の場合、となり近所への配慮もあり、農業をするには難しい場合があることを理解している。
5	子供の学校や幼稚園の通学・通園に問題はない。
6	交通網や公共施設等のチェックは済んでいる。
7	農村では地域内の人のつきあいが濃密で、営農のためにも地元の農家とのつきあいが重要となる。共同作業や地域での役割を求められることを理解している。

採点⑤ ○の数で採点。7個→5点、6個→4点、5個→3点、4～3個→2点、2～1個→1点、0個→0点

点